

〈研究ノート〉

チリの学生運動における ソーシャルメディアの使用 ——ツイッターの使用目的に関する内容分析 (2011年～2015年)——

三 浦 航 太

1. はじめに

チリでは、教育制度に関する学生運動が、2000年代以降今日に至るまで毎年学生組織を中心に実施されている。学生たちは、軍政下で導入された高等教育制度の改革、教育格差の解決、高等教育の無償化を主張してきた。とりわけ、民政移管後初の右派政権となったピネラ政権下で発生した2011年の運動は最高で40万人をデモに動員するに至り、民政移管後最大の学生運動となった。同時に、この年の学生運動では新しい現象が見られた。それは、ツイッターやフェイスブックなどのソーシャルメディアが使用され始めた、ということである。2014年に高等教育の無償化を掲げる中道左派のバチェレ政権が誕生した後もなお運動は継続され、ソーシャルメディアも継続的に用いられている。

社会運動におけるソーシャルメディアの利用に注目が集まるようになったのは、2011年に世界的に見られた社会運動（中東のアラブの春、アメリカ合衆国のオキュパイ運動、スペインのインディグナドスなど）がきっかけである。これらの運動は、運動組織を基盤とする旧来の社会運動とは異なり、リーダー不在、運動組織不在という特徴を持つ新しいタイプの社会運動と見

なされた。そうした非組織的な社会運動を可能にしたのが、ソーシャルメディアが持つ個々人の意見を集約し繋ぐという機能である。だが、チリの学生運動の場合、学生組織を基盤として運動が行われてきたことを考慮すれば、ソーシャルメディアが同様の機能を持つとは考えにくい。では、チリの学生運動において、ソーシャルメディアはいかなる目的で用いられているのか。本研究は、ソーシャルメディアの一つであるツイッターの投稿内容を分析し、その使用目的を明らかにすることを目指す。さらに本研究は、チリの学生運動が毎年継続的に運動が行われているという特徴に着目する。それにより、社会運動におけるソーシャルメディアの使用のあり方が時間の経過とともにいかに変化するのかを明らかにしたい。

2. 先行研究の批判的検討と本研究の位置づけ

ソーシャルメディアが登場した2000年代以降、ソーシャルメディアと社会運動の関係について、社会運動研究やコミュニケーション研究の分野を中心に研究がなされてきた。ソーシャルメディアの存在は、運動組織やリーダーの不在、グローバルかつローカルな運動、個人的フレーム¹⁾による動員などの特徴を持つ新しいタイプの社会運動を生み出したと指摘されている(Castells 2012; Bennett and Segerberg 2011, 2012)。とりわけ、アメリカのオキュパイ運動(Park, Lim and Park 2015; Penney and Dadas 2014; Tremayne 2014 など) やスペインのインディグナドス(Peña-Lopez, Congosto and Aragón 2014; Micó and Casero-Ripolles 2014 など) に関して、ソーシャルメディアの存在がリーダー不在の中で短期的かつ爆発的な運動の広がりを生んだことが明らかにされている。ラテンアメリカにおいては、チリを除くと、2012年メキシコの#YoSoy132運動(Gómez and Treré 2014; Spiro and Monroy-Hernández 2016 など) に関する研究が見られる。#YoSoy132運動においてはハッシュタグ²⁾を通じて人々が繋がり新しい運動参加のあり方を生み出したと指摘される(Gómez and Treré 2014)。これらの研究は、ソーシャルメディアにより非組織的であっても運動が可能であるという社会運動の新しい側面を

示したという点で大きな意義があると考えられる。

一方で、チリの学生運動に限定した先行研究としては、フェイスブックやオンライン動画などのソーシャルメディアの使用に関して学生組織の動きに焦点を当てた分析がなされている (Peña, Rodríguez y Saéz 2015; Cabalín 2014; Rodríguez, Peña y Sáez 2014)。また、ガルシアらはツイッターのユーザー間のネットワークを分析し、2013 年以降学生組織がネットワークの中で情報拡散の中心的役割を果たすようになる「ツイッターの制度化」を明らかにしている (García et al. 2014)。これらの先行研究は、チリの学生組織が新しいメディアに適応し運動に活用していく過程を明らかにしている。

これらの先行研究には2つの問題点があると考えられる。第一に、新しいタイプの社会運動は非組織的な運動が多いため、既存の組織的な運動におけるソーシャルメディアの使用にあまり目が向けられていない。確かに、既存の組織的な運動におけるソーシャルメディアの使用について一部の先行研究では言及がなされている。組織的な運動においてソーシャルメディアは、(1) 集合的なフレームを広めるため、(2) デモやストライキへの動員を促すため、(3) 運動の主張や目標を広めるため、に用いられると指摘されている (Bennett and Segerberg 2012)。だが、こうした指摘は非組織的な社会運動との対比を通じて類型化されたものであり、現実の事例を通じた検証はあまりなされていない。同様に、新しいタイプの社会運動は数週間から数か月の間に終結した短期的な運動が多く、ソーシャルメディアの使用のあり方が変化に着目した分析が不足していると考えられる。チリの学生運動は学生組織を基盤とする組織的な運動であると同時に (García et al. 2014; Guzman-Concha 2012)、毎年継続的に行われているという特徴がある。本研究では2011年から2015年にかけて、チリの学生運動という組織的な運動においてソーシャルメディアがいかに使用され、時間の経過とともにそれがいかに変化したのかを分析する。先行研究が非組織的な社会運動の事例に偏りがちであったのに対し、本研究が組織的な社会運動の事例を加えることは、ソーシャルメディアと社会運動の関係の多面的な理解につながると考えられる。

第二に、チリの学生運動に関する先行研究ではリーダーや組織によるソーシャルメディアの使用が着目され一般の人々による使用が見逃されているという問題点が指摘できる。ソーシャルメディアの最大の特徴は、膨大な一般ユーザーと彼らの投稿の存在がメディアを形成しているという点にある。確かに、既存の組織的な社会運動においてソーシャルメディアの使用を主導する運動組織やリーダーを分析することは重要であるが、ソーシャルメディア全体像からするとごく一部の動きに過ぎない。本研究は、学生組織や学生リーダーだけでなく一般ユーザーも含めた分析を行うことでこの問題点を解消する。本研究は、これまで運動組織やリーダーの観点から論じられがちであったソーシャルメディアの使用について、その全体像の理解を試みるものであると言える。

3. ツイッターの使用目的に関する仮説の設定

チリの学生運動においてツイッターがいかなる用途で用いられたかを明らかにする上で、以下の通り仮説を立てる。まず、前節で言及した、組織的な運動において想定されるソーシャルメディアの3つの用途、(1) 集合的なフレームの伝播、(2) デモやストライキへの呼びかけ³⁾、(3) 運動の主張や目標の伝播がチリの学生運動においても多く見られるのかを検証することを出発点とする。

さらに本研究は、チリの学生運動でツイッターの使用が開始された2011年から2015年までを分析対象とし、用途の変化にも着目する。前節で述べた、2013年以降学生組織がツイッターのネットワークの中心に位置するようになるという「ツイッターの制度化」を考慮したい。「ツイッターの制度化」は、学生組織がツイッターの使用を主導するようになったと言い換えられるだろう。したがって、2011年や2012年などは組織的な社会運動とはいえ個人個人のフレームを投稿し集約する目的のためにツイッターが用いられていたものの、学生組織によるツイッターの制度化により、上で述べた(1)～(3)の特徴は進行していくのではないかと仮説が立てられる。

加えて、本研究ではツイッターの中でもハッシュタグ付き投稿をデータとして用いるため、ハッシュタグの使用法の相違に着目する必要がある。2011年は同じハッシュタグがその年の運動の間継続的に用いられたのに対し、2012年以降はデモごとに毎回別のハッシュタグが作られ用いられるようになった。それらデモごとのハッシュタグは早ければデモの1か月前から遅くとも1週間前くらいに学生組織やそのメンバーにより作成されることが多い。この事実を踏まえると、2012年以降ツイッターはデモに関する内容が多くなると考えられる。加えて、デモのために事前にハッシュタグが作られていることから、デモ当日に実況するような用途よりも事前のデモへの呼びかけの用途が増えると思われる。

以上から、ツイッターの制度化とハッシュタグそれ自体の使用法の違いにより、2011年から2015年にかけて年を経るにつれて、とりわけ2012年から2013年頃から(1)集合的なフレーム、(2)デモに関する内容、(3)運動の主張や目標が多くなり、さらに(2)については事前の呼びかけ目的の投稿が増加するものと仮説が立てられる。

4. ツイッターの投稿データの検索とその分析方法

(1) 分析対象とするハッシュタグの選択

本論文では、様々なソーシャルメディアの中からツイッターを分析対象として選択する。チリでは2010年2月27日のチリ大地震後わずか3週間の間にユーザー数が3倍に増加し⁴⁾、2010年末にはユーザー数は100万人にまで達している⁵⁾。ツイッターの投稿はツイート(Tweet)と呼ばれる140字以内の短文であるため、多くの内容は盛り込まれにくく用途の特定がしやすいというメリットもある。

まず学生運動に関するツイートに限定するため、分析対象とすべきハッシュタグを選択する。前節で述べた通り、2011年の運動では同じハッシュタグが継続的に用いられていたのに対し、2012年以降はデモごとに個別のハッシュタグが作られた。まず、2011年については、ロドリゲスら(2015)

が2011年の運動の代表的なハッシュタグをして示していた3つのハッシュタグを選択した。2012年から2015年までの4年間については、チリの学生運動を組織するチリ大学生連合が公式に組織した22回のデモにおいて用いられたハッシュタグのうち、各デモで最も投稿数が多かったハッシュタグを1つずつ選択した。表1に示した通り、2011年は3個のハッシュタグ、2012年は5個、2013年は8個、2014年は4個、2015年は5個、計25個のハッシュタグを選択した。

(2) ハッシュタグ付きツイートの検索

25個のハッシュタグ付きツイートはツイッターの公式検索機能である「高度な検索」機能⁶⁾を用いて検索した。まず検索言語をスペイン語とした。次に、学生運動の多くがサンティアゴで行われている（Fernández Labbé 2013）ことを考慮し、検索範囲を首都サンティアゴに限定した。最後に検索期間について、年間通して継続的にハッシュタグが用いられた2011年は、ハッシュタグが作られた日から毎年デモが終了する10月までを検索期間と

表1 分析対象としたハッシュタグ一覧

年	ハッシュタグ名（デモの日付け）
2011	#Yoapoyoalosestudiantes / #Movilizados2011 / #Estudiantazo
2012	#Yomarchoel25 (4月25日) / #Todosmarchael16 (5月16日) #Yomarchoel28 (6月28日) / #Yomarchoel28 (8月28日) #Yomarchoel27 (9月27日)
2013	#Nosvemosel11 (4月11日) / #Nosvemosel8 (5月8日) #Yomarchoel28 (5月28日) / #Nosvemosel13 (6月13日) #Yomarchoel26 (6月26日) / #Yomarchoel11 (7月11日) #Nosvemosel5 (9月5日) / #Nosvemosel17 (10月17日)
2014	#08M (5月8日) / #Yomarchoel10 (6月10日) #Yomarchoel21 (8月21日) / #Marchael9 (10月9日)
2015	#Chilemarchael16 (4月16日) / #Quechiledecida (5月14日) #Copaamericadelaeducación (6月10日) / #Yomarchoel25 (6月25日) #Chilemarchael15 (10月15日)

筆者作成。2011年は継続的にハッシュタグが用いられたためデモの日付けを掲載せず。

した。2012年から2015年の各ハッシュタグについては、ハッシュタグが作られた日からデモの当日までを検索期間とした。2011年から2014年までのツイートは2015年12月5日から7日に検索し、2015年のツイートは2016年4月10日から11日に検索した。計31239個のツイートが検索された。

(3) データ分析

ハッシュタグ付きツイートで分析すべきツイートを限定したうえで、使用頻度の高い単語を割り出し、それらの単語からどのような用途でツイッターが用いられているのかを分析する。

ツイートの検索結果画面において、頻度が高いと見られる様々な語について語句検索機能を用いて繰り返し検索を行い、表2左のように、上位10語を導出した⁷⁾。上位10語に加えて、ツイッターが個人的なフレームを集約するために用いられているのか、あるいは集合的なフレームを集約するために用いられているのかを分析するために、前者についてはスペイン語の一人

表2 ハッシュタグ付きツイートの頻出上位10語及び追加した1語と2つの表現

順位	語 (日本語意味)	順位	語 (日本語意味)
1	marcha (デモ)	13	ahora (今)
2	educación (教育)	—	yo / me / mi / mío (一人称単数)
3	estudiante (学生)		
4	Chile (チリ)	—	-mos / nos / nuestro (一人称複数)
5	todos (みんな)		
6	mañana (明日)		
7	calle (街頭)		
8	gratuito (無償の)		
9	hoy (今日)		
10	calidad (質)		

筆者作成。

称単数の人称代名詞 (yo・me) と所有形容詞 (mi・mío)、後者については一人称複数の活用動詞 (-mos)、人称代名詞 (nos)、所有形容詞 (nuestro) を加えた⁸⁾。さらに、ツイッターが当日の実況的な用途で用いられているのか事前の呼びかけで用いられているのかを分析するために、使用頻度第13位であった「今 (ahora)」を分析に加えた。以上計13語(上位10語、追加2表現、追加1語)を分析対象とした。

分析に含める単語を限定したうえで、統計解析ソフトウェアRを用いて主成分分析を通じて年ごとにツイートにどのような傾向があるのかを明らかにする。手順としては、まず各ハッシュタグにおける各語の出現回数をそのハッシュタグの総ツイート数で割り、全ツイート数に占める各語の出現割合を出した。その上で年ごとの傾向を明らかにするために、先に導出してある各語の出現割合を年ごとに平均を取り主成分分析を行った。

5. ツイッターの使用目的に関する分析結果・考察

(1) 各主成分の解釈

まず各主成分の解釈を行い、各年では使用目的にどのような特徴が見られるのかを明らかにする。主成分分析の結果、第一主成分の寄与率が56.2%、第二主成分が30.6%、第三主成分が7.5%で、第三主成分の固有値は0.99となり1を下回るものの、第三主成分までの累積寄与率が90%を超える第三主成分まで解釈を行うことにした。

図1の散布図は各語の固有ベクトルの値を示しており、横軸は第一主成分、縦軸は第二主成分である。各語の位置が近い場合が似たような使われ方としており、各軸に関して原点から遠いほど各軸の特徴をよく表していると考えてよい。第一主成分(横軸)を見てみると、マイナス方向(左方向)で最も端に位置しているのが個人的表現を示す一人称単数に関する単語である(グラフ中では「yo」で示している)。原点を挟んでちょうど反対側プラス方向に集合的表現を示す一人称複数の単語が位置しており(グラフ中では「nosotros」で示している)、同様に集合的表現と捉えられる「みんな (todos)」⁹⁾が位置

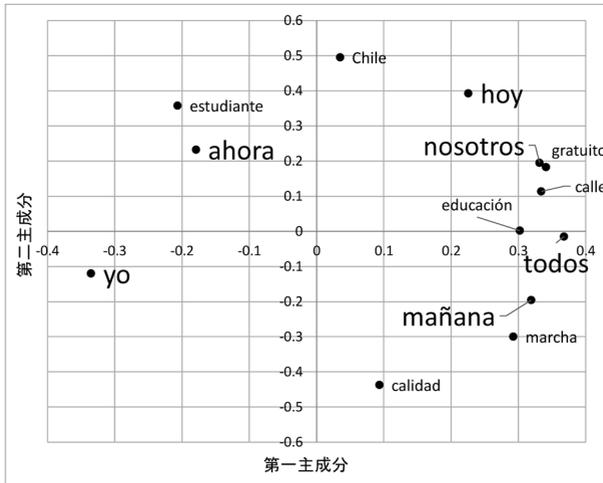


図1 第一主成分と第二主成分の各語の固有ベクトル
主成分分析の結果から筆者作成（着目すべき語については文字を拡大している）。

している。ここから、第一主成分はプラス方向に集会的表現、マイナス方向に個人的表現を表す軸であると解釈できる。

次に縦軸の第二主成分であるが、一見解釈が難しいが時を表す表現に着目してみると、プラス方向（上方向）には「今日 (hoy)」や「今 (ahora)」といったデモの当日や実況目的で使用されると考えられる語が位置している。一方で、マイナス方向（下方向）には「明日 (mañana)」¹⁰⁾ というデモの前日に使用されると考えられる語が位置している。したがって、第二主成分はプラス方向にはデモ当日の呼びかけやデモの実況を目的としたツイート、マイナス方向には事前にデモへの参加を呼びかける目的のツイートを表す軸であると解釈できる。

図2の散布図も同様に各語の固有ベクトルの値を示しているが、横軸は第一主成分で変わらないものの、縦軸は第三主成分を示している。最後に第三主成分（縦軸）を見てみると、プラス方向（上方向）には、「街頭 (calle)」や「デモ (marcha)」などデモに関する語が位置している。「街頭 (calle)」

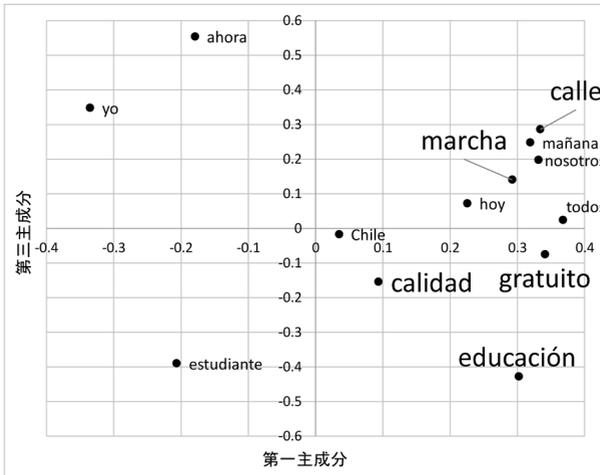


図2 第一主成分と第三主成分の各語の固有ベクトル
主成分分析の結果から筆者作成（着目すべき語については文字を拡大している）。

は例えば「街頭に出よう（Vamos a la calle）」といった表現を通じてデモへの呼びかけのために使用される。一方でマイナス方向（下方）には、チリの学生運動でスローガンとして用いられている「無償で、質の高い、公教育（Educación Pública, Gratuita y de Calidad）」に使われている語が位置している。第三主成分はプラス方向にはデモに関する内容、マイナス方向には学生運動の主張や目標に関する内容を表す軸であると解釈が可能である。第一主成分との関係を見てみると、これら2つの内容は全て集合的表現の側（図2右側）に位置しており、デモに関する内容も運動の主張や目標も集合的表現とともに使われやすいと言えるだろう。

(2) ツイッターの使用目的の変化

図3は2011年から2015年までの各年の主成分得点である。第一主成分については、前項で解釈したようにプラス方向が集合的表現（集合的なフレーム）、マイナス方向が個人的表現（個々人のフレーム）を示している。第一

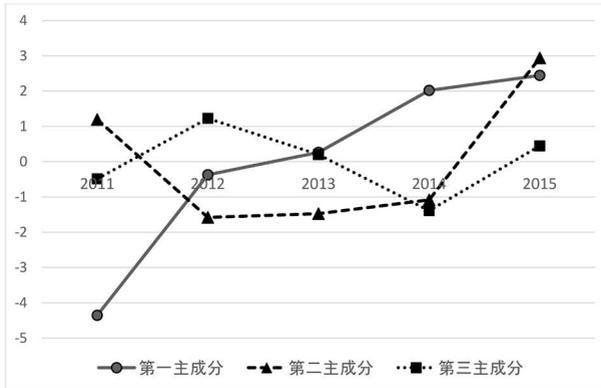


図3 各主成分得点の推移 (2011年～2015年)
主成分分析の結果から筆者作成。

主成分は2011年に大きくマイナスの値を示しているが、2012年から2013年にかけてゼロ付近にまで値は増加し、2014年から2015年にかけてプラスに転じている。この結果から、たとえチリの学生運動が既存の組織的な社会運動であっても、ツイッターの使用初期においては新しいタイプの社会運動のように個人的なフレームを集約するために用いられていると言えるだろう。学生組織によるツイッターの制度化が進行するにつれて、(1) 集合的なフレームが増加するという仮説を立てたが、この結果はおおむね仮説と一致している。前項でデモに関する内容や運動の主張や目標は集合的表現と用いられる傾向にあることを指摘した。ツイッターの制度化の進行とともに(2) デモに関する内容や(3) 運動の主張、目標に関する内容が増加するという仮説もこの分析結果と一致している。ただし、今回の内容分析においてプラス方向(集合的表現)に転じたのは2014年以降であり、この点では2013年以降学生組織がネットワークの中心に位置するようになったというツイッターの制度化とはタイムラグがある。ツイッターのネットワークでの変化が先に生じ、それが内容面での変化を生じさせたものと考えられる。

この結果に関して、特に興味深いのは民政移管後最大の運動となった

2011年の運動において個人的表現が多いことである。本来組織を基盤とする社会運動であれば、集合的な表現が多い時の方が動員規模は大きくなると考えられるからである。この結果については2つの解釈があり得ると考えられる。第一に個人的なフレームが大規模化をもたらしたとする解釈である。本来組織的な社会運動においては集合的なフレームの方が重要であるということ を考慮すると、この解釈は新しい知見であり非常に魅力的に思われる。第二の解釈としては、2011年に比べて翌年以降デモが縮小していく中での動員規模維持の必要性が、学生組織にツイッターを使用させるに至らしめた。その結果ツイッターの制度化が生じ、集合的なフレームが増加した、という解釈もあり得るだろう。

次に第二主成分得点の推移を見てみると、2011年にプラス方向（当日の使用、実況目的の使用）であったのが、2012年から2014年にかけてマイナス方向（事前に呼びかけ目的の使用）に転じ、2015年には再度プラスに転じている。2012年からデモごとにハッシュタグが作られるようになったことで、事前に呼びかけるような使用が増えると仮説を立てたが、この点についても2012年から2014年にかけては仮説の通りであると言える。しかし2015年に再びプラス方向に転じており、この点は仮説とは一致しない。チリの学生運動では毎年学生組織ごとに選挙が実施され指導部が入れ替わるが、運動の方針はこの指導部に依拠する部分が大きく、既にツイッターの制度化が進行していることを考慮すると2015年ツイッター使用に関する方針が変わったのではないかと考えられる。

最後に第三主成分得点の推移については、2012年はプラス（デモに関する内容）であるが、2014年にはマイナス（運動の主張や目標）に転じ、2015年には再度プラスに転じている。デモに関する内容、運動の主張や目標に関する内容全体としては仮説に一致することは第一主成分のところでも指摘したものの、年によってこれら2つの傾向が分かれることは仮説とは異なる結果となった。例えば、2014年は運動の主張や目標が多くなっている。2014年は大学授業料無償化を掲げる第二次バチエレ政権が誕生したことで、学生運

動としては運動の正当性を確保することが困難になり、運動参加者の間で再度運動の主張や目標を再確認するためにそれらのツイートが多くなったのではないかと考えられる。

6. 結論

本論文では、ツイッターの内容分析を通じて、チリの学生運動においていかなる用途でツイッターが用いられているのかを明らかにした。第一に、ツイッターの用途としては「集合的フレーム-個人的フレーム」、「デモの事前の呼びかけ-デモの当日の呼びかけ」、「デモに関する内容-運動の主張や目標」という3つの軸が存在する。第二に、各軸においてどちらの用途が支配的かは年によって変化する。具体的には、学生組織がツイッターの情報拡散の中心に位置づけるというツイッターの制度化とともに、集合的表現、デモに関する内容、運動の主張や目標が増加した。特に、民政移管後最大規模の運動となった2011年において個人的表現が多いという興味深い結果が得られた。

さらに本研究の議論を先行研究と対比して、本研究の意義は次のように集約される。第一に、非組織的かつ短期的な運動に基づく分析が集中していたソーシャルメディアと社会運動の関係について、組織的かつ長期的な運動に関する実証研究を加えたことである。これまでソーシャルメディアの使用についての分析は多く見られたが、本研究はその使用のあり方が変化することを明らかにした。本研究を通じて、この点に関する注目すべき示唆が得られた。チリの学生運動のような組織的な運動であってもソーシャルメディア導入当初は個人的なフレームを集約するための使用が多いのではないかとということである。つまり、組織的な運動にも非組織的な運動のような特徴が見られる瞬間が存在すると考えられる。組織的でもあり非組織的でもあるならば、組織にだけ着目しても個人にだけ着目しても不十分であり、今後の社会運動研究は両者をより接続するような理論や分析視点が求められるのではないかと考えられる。

第二に、学生組織やリーダーの観点から多く分析がなされてきたチリの学生運動の先行研究に対して、本研究は一般の人々（ツイッターのユーザー）も含めた分析を行った。その結果、本研究は興味深い結果として、民政移管後最大の運動となった2011年において個人的な表現が多いということを明らかにした。それは、組織的な運動であっても人々の意識や認識において個人的な要素が強いときに運動が大規模化するのではないかと、という新しい知見とも言い換えられよう。先に述べた通り、この結果もまた、社会運動研究において、とりわけチリの学生運動研究において、組織と個人を接合するような理論、分析視点の必要性を促すものであると考えられる。

チリの学生運動はソーシャルメディアを活用しつつ今日に至るまで継続している数少ない運動である。今後もソーシャルメディアと学生運動の関係が変化すると考えられる中で、チリの学生運動の分析を通じて、社会運動の現状を精緻に把握し、関係の変化を注視していくことが重要だろう。

* 本稿は、Third ISA Forum of Sociology—International Sociological Association（2016年7月11日、オーストリア）における口頭発表をもとに構成したものです。本誌掲載にあたり査読の先生方から、大変貴重なご指摘を賜りました。心より御礼申し上げます。

註

- 1) 社会運動研究の中では、社会運動が対象とする問題の解釈枠組みのことを「フレーム」と呼び、運動のリーダーや運動組織が自らのフレームに対する共鳴を人々の間に呼び起こすことを「フレーミング」と呼ぶ（Snow et al. 1986）。本論文では、人々が持つ意見や問題解釈の枠組みの表現をフレームと呼んで議論を進めることにする。
- 2) ハッシュタグとは、ソーシャルメディアで共通の話題についての投稿であることを示し投稿の共有を行うための記号である。例えば投稿の中に「#学生運動（#movimientoeudiantil）」と加えることで、投稿者は自身の投稿が学生運動に関する内容であることを示すと同時に、他のユーザーはこの投稿を容易に検索し共有することができる。
- 3) チリの学生運動においてもストライキが抗議手法として用いられることも

あるが、主要な抗議手法はデモである。ツイッターの使用についてもストライキに関しては十分なデータが得られなかったため、今回はデモのみを扱うことにした。

- 4) Emol, 26 de mayo, 2010. (<http://www.emol.com/noticias/tecnologia/2010/05/26/415360/usuarios-de-twitter-en-chile-aumentaron-mas-de-un-500-despues-del-terremoto.html>), 2015年8月10日閲覧。
- 5) Portal Oficial de Chile, 17 de enero, 2011. (<https://www.thisischile.cl/twitter-suma-1-millon-de-usuarios-en-chile-y-podria-seguir-en-alza/>), 2017年2月16日閲覧。
- 6) <https://twitter.com/search-advanced> (ツイッター「高度な検索」)。
- 7) 上位10語からは冠詞、前置詞、否定の no を除外している。使用頻度の順位が出たうえで、「marcha」「educación」「estudiante」「Chile」「gratis」については以下のように類義語も分析に加えた。「marchar (デモ行進をする) (動詞)」「educacional (教育の) (形容詞)」「educativo (教育の) (形容詞)」「estudiantil (学生の) (形容詞)」「chileno (チリ人、チリの) (名詞、形容詞)」「gratis (無料の) (形容詞)」「gratuidad (無償性) (名詞)」。
- 8) 一人称複数形の活用後の動詞の語尾は時制に関わらず「-mos」となるため特定が可能であったが、一人称単数の活用後の動詞の語尾は時制によって種類が多く頻度の導出が困難であったため、動詞の活用ではなく「yo」から判断することにした。
- 9) 「todos」は「全ての」という形容詞としての用法よりも「みんな」という名詞としての用法が多かったため、集合的な表現として解釈してよいと判断した。
- 10) 「mañana」は「朝、午前」よりも「明日」という意味で用いられている方が多かったため、「明日」として扱ってよいと判断した。

参考文献

- 斉藤泰雄. 2012.『教育における国家原理と市場原理—チリ現代教育政策史に関する研究』東信堂.
- Bennett, W. Lance, and Alexandra Segerberg. 2011. "Digital Media and the Personalization of Collective Action: Social Technology and the Organization of Protests against the Global Economic Crisis," *Information Communication & Society*, 14(6), pp. 770–799.
- Bennett, W. Lance, and Alexandra Segerberg. 2012. "The Logic of Connective Action: Digital Media and the Personalization of Contentious Politics," *Information Communication & Society*, 15(5), pp. 739–768.

- Cabalin, Cristian. 2014. "Online and Mobilized Students: The Use of Facebook in the Chilean Student Protests," *Comunicar*, (43), pp. 25–33.
- Castells, Manuel. 2012. *Networks of Outrage and Hope: Social Movements in the Internet Age*. (Cambridge: Polity Press).
- García, Cristóbal, Marisa von Bülow, Javier Ledezma, and Paul Chauveau. 2014. "What Can Twitter Tell Us about Social Movements' Network Topology and Centrality? Analysing the Case of the 2011–2013 Chilean Student Movement," *International Journal of Organisational Design and Engineering*, 3 (3/4), pp. 317–337.
- Gómez, Rodrigo, and Emiliano Treré. 2014. "The #YoSoy132 Movement and the Struggle for Media Democratization in Mexico," *Convergence: The International Journal of Research into New Media Technologies*, 20 (4), pp. 496–510.
- Guzman-Concha, Cesar. 2012. "The Students' Rebellion in Chile: Occupy Protest or Classic Social Movement?" *Social Movement Studies*, 11 (3–4), pp. 408–415.
- Micó, Josep, and Andreu Casero-Ripollés. 2014. "Political Activism Online: Organization and Media Relations in the Case of 15M in Spain," *Information Communication & Society*, 17 (7), pp. 858–871.
- Park, Se Jung, Yoo Soo Lim, and Han Woo Park. 2015. "Comparing Twitter and Youtube Networks in Information Diffusion: The Case of the "Occupy Wall Street" Movement," *Technological Forecasting & Social Change*, 95, pp. 208–217.
- Peña, Patricia, Raúl Rodríguez, and Chiara Saéz. 2015. "Student Online Video Activism and the Education Movement in Chile," *International Journal of Communication*, 9, pp. 3761–3781.
- Peña-Lopez, Ismael, Mariluz Congosto, and Pablo Aragón. 2014. "Spanish Indignados and the Evolution of the 15M Movement on Twitter: Towards Networked Para-institutions," *Journal of Spanish Cultural Studies*, 15 (1–2), pp. 189–216.
- Penney, Joel, and Caroline Dadas. 2014. "(Re)tweeting in the Service of Protest: Digital Composition and Circulation in the Occupy Wall Street Movement," *New Media & Society*, 16 (1), pp. 74–90.
- Rodríguez, Raúl, Patricia Peña, and Chiara Sáez. 2014. "Crisis y cambio social en Chile (2010–2013): El lugar de los medios de los movimientos sociales y de los actividades digitales," *Anagramas Universidad de Medellín*, 12 (24), pp. 71–94.
- Scherman, Andrés, Arturo Arriagada, and Sebastián Valenzuela. 2015. "Student and Environmental Protests in Chile: The Role of Social Media," *Politics*, 35 (2), pp. 151–171.
- Snow, David A., E. Burke Rochford, Jr., Steven K. Worden, and Robert D. Benford.

1986. "Frame Alignment Processes, Micromobilization, and Movement Participation," *American Sociological Review*, 51, pp. 464–481.
- Somma, Nicolás. 2013. "¿Puede el activismo digital compensar las desigualdades participativas en Chile?" en Millaleo, Salvador, y Patricio Velasco. (eds). *Activismo digital en Chile*. (Santiago: Fundación Democracia y Desarrollo)
- Somma, Nicolás. 2015. "Participación ciudadana y activismos digitales en América Latina," en Sorj, Bernardo, and Sergio Fausto. (eds). *Internet y movilizaciones sociales: Transformaciones del espacio público y de la sociedad civil*. (São Paulo: Edições Plataforma Democrática).
- Spiro, Emma. S. and Andrés Monroy-Hernández. 2016. "Shifting Stakes: Understanding the Dynamic Roles of Individuals and Organizations in Social Media Protests," *PLoS ONE*, 11(10), e0165387.
- Tremayne, Mark. 2014. "Anatomy of Protest in the Digital Era: A Network Analysis of Twitter and Occupy Wall Street," *Social Movement Studies*, 13(1), pp. 110–126.

〈Resumen〉

**The Use of Social Media in
the Chilean Student Movement:
Content Analysis of the Purpose of
the Use of Twitter (2011–2015)**

Kota MIURA

Since social media started being used in social movements in 2011 such as Occupy Wall Street and Indignados, the relationship between social media and social movements has been analyzed. The presence of social media has generated a new kind of social movements, in which social media are used to connect individuals and gather personal frames—interpretation schema of problems—rather than collective frames without social movement organizations.

However, the use of social media in social movements is not a phenomenon found only in the new type of social movements. The classic type of social movements, which is based on social movement organizations and collective frames, also has started utilizing social media. While the Chilean student movement claiming for higher education of free tuition has been categorized as a classic type of movement based on the strong student organizations such as Confech and Fech, it started to utilize social media such as Twitter and Facebook since 2011. The previous studies have focused on the use of social media in the new type of movements, but the use of social me-

dia in the classic type of movements has remained unclear.

This paper analyzes the purposes of the use of social media in the Chilean student movement based on the fact that the Chilean student movement is organized by student organizations. This research attempts to overcome two points in the previous studies. First, this research takes time-series change into consideration while the previous studies have not sufficiently looked at it because the new type of social movements such as Occupy Wall Street and Indignados are relatively short-term. Second, this paper aims to reveal the use of social media not only by student organizations and leaders but also by ordinary users while the previous studies on the Chilean student movement have analyzed the use of social media mainly from the perspective of student organizations and leaders.

This paper analyzes the texts of Twitter using Principal Component Analysis to reveal the purposes of the use of Twitter. In particular, this paper looks at posts with hashtags used in the Chilean student movement from 2011 to 2015 and what words have been written in Tweets of the hashtags. The results of analysis reveal three types of the purposes: (1) collective expressions or individual expressions, (2) the use before the demonstration day or the use on the demonstration day and (3) talking about demonstrations or talking about claims and goals of the movement. More particularly, the result shows that the use for the purposes of collective expressions, which can be regarded as collective frames, increases as “Institutionalization of Twitter” advances, which means that the student organizations learn and control information diffusion in Twitter since 2012. In addition, interestingly, the result reveals that the usage for the purposes of individual expressions predominates collective expressions in the 2011 movement, which is the largest-scale movement since the democratization in 1990, in spite of the fact that the Chilean student movement is based on student organizations.

This paper will contribute not only to understanding the use of social media in the Chilean student movement but also to giving suggestions about the future of the classic type of social movements in an era of the change of social movements resulting from the usage of social media.